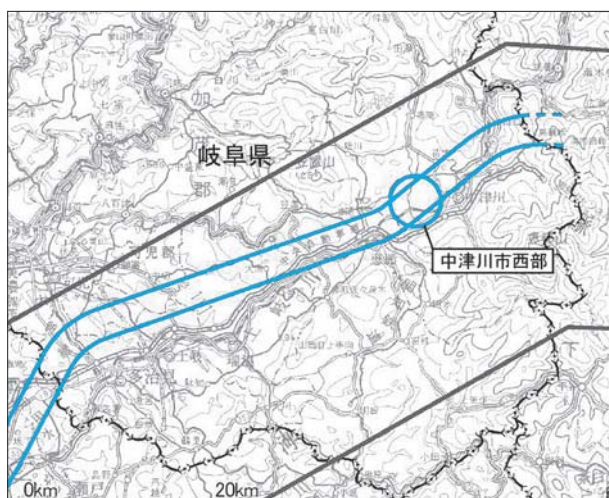


■ 検討対象

概略ルート上で、岐阜県から要望のある東濃地域のうち、明かり区間で既存鉄道と近接する中津川市西部にて検討を行った。



技術的設置可能性	中津川市西部では、JR中央線と並行する形で、約20mの高さの地上駅で計画可能である。
利便性	(鉄道) JR中央線の既存駅に近接している。 (道路) 中央自動車道とのアクセスは容易である。
環境への影響	できる限り高架橋の高さを低くするなど、環境への配慮が必要である。
用地の確保	周辺は農地が主体となっている。

■ 中間駅の概略位置

- 道路、鉄道双方の利便性が高い中津川市西部に設置する。
- 今後、具体的な位置を確定するにあたっては、駅周辺整備との整合等を図るため、関係機関と調整を進める。

リニア県期成同盟会開催

リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会（会長古田肇岐阜県知事）の平成23年度定期総会が、6月9日（木）、関係者約500人が参加して東美濃ふれあいセンター歌舞伎ホールで開催されました。

大山市長の「同盟会で目指してきた1県1駅の設置が表明されたことは喜ばしい。関係者の皆さんへ感謝する。当市が選定されたことは光栄であり、県下全体の発展につながるよう皆さんと力を合わせて取り組んでいきたい」という開会の言葉で始まり、会長である古田知事のあいさつ、御来賓祝辞の後、議案審議が行われました。

また、中間駅の建設費用負担に関する地元負担の軽減および国の関与、県内駅利用者の利便性向上のためのダイヤ編成、「リニア中央新幹線地域づくり研究会」への参加など7項目についての決議も採択されました。開会の言葉を述べる大山市長



「リニア中央新幹線」計画について、シリーズでお伝えしています。先月号（シリーズ⑩）では、5月12日に行われた交通政策審議会から国土交通大臣への答申についてお伝えしました。

その後、5月20日にはJR東海が建設、営業主体に指名され、26日には整備計画の決定、27日には建設の指示が出され、大きく事業が前進しました。

さらに、6月7日には、JR東海が手続きの一環として「中央新幹線（東京都・名古屋市中心）計画段階環境配慮書」（以下配慮書）を公表し、

その中で、県内の中間駅について、中津川市西部を位置として選定したこと、また、車両基地についても、当市内に設置される計画であることが明らかになりました。（ルートは3km幅、駅候補地は直径5kmの円・配慮書本編4章4-24頁、4-15頁参照）

中間駅位置選定に関するJR東海の説明

6月9日のリニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会、平成23年度定期総会（左下参照）終了後に、JR東海による今回の配慮書に示され

た概略のルートや駅などに関する説明会がありました。

説明会では、まず、ルートの検討に関する説明があり、①恵那山を避け北側を通過。②断層は出来るだけ避け、横断する場合は最短で横切る。③自然公園内を極力避ける。④東濃西部のウラン鉱床を避ける。などの条件により、概略ルートが選定され、次に、そのルート上で駅位置が検討されたことを明らかにしました。

また、駅位置に関しては、中津川市西部以外にも、恵那市街地や土岐市の東海環状自動車道交差点部、多治見市の太多線との交差点部等も検討の対象となっていたが、①地上駅の設置が可能なこと。②既存駅や高速道路ICに近接していること。③環境へ

の影響が少ないこと。④周辺整備も含めて用地確保がしやすいこと。などの条件を満たす中津川市西部が選定されたということでした。

また、車両基地についても、始発駅（名古屋）から近く回送時間が短くなり、60〜70ha必要とする用地の確保が可能な中津川市西部を選定したという説明でした。

今回、初めてルートや駅、車両基地に関してJR東海の考え方が示され、今後、環境影響評価に基づく調査とともに、本格的な協議が進められます。

詳しくは、JR東海ホームページ <http://jr-central.co.jp/> をご覧ください。

問 まちづくり課（内線322）